

「すいしんいんオンラインセッション」 Q&A

第3回ウェビナー（12月22日）で寄せられた質問への報告者の回答&パネリストからの関連情報

報告テーマ：居場所を基地に、本人がやりたいことをかなえ、共に変身！

報告：広島市広島市 医療法人社団更生会 草津病院 岡田眞理

広島市江波地域包括支援センター 梅田 沙貴恵

質問内容		質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）
0. 基礎情報	推進員の配置の携帯	1	39圏域を8人の認知症地域支援推進員でどのように担当しているのか。	広島市8区に分かれていて、各区に1名ずつ推進員が配置されている。
		2	包括が41か所で、認知症地域支援推進員8名はどのように配置されているのか。	
	推進員活動についての包括の理解・協力体制について	3	広島市は100万都市の中で、推進員が8名と少ない中、このきつね倶楽部を皮切りに他でも同様の居場所に発展できているのは、包括41か所+推進員8名が一丸となり取り組まれているのだと感じます。包括の他職種が理解し協力体制をとれるようなった策があれば教えてください。	8区のうち1か所の区はすでに月1回で、またもう1区は現在準備に入っている。推進員として自分でも思いながら、法人の協力体制も含めそれぞれの課題があるのですぐには難しいと思っている。 自法人の包括職員とは、常にきつね倶楽部に関する情報提供をすることで関心を維持しているので必要時お互いに協力できていると思う。
1. きつね倶楽部の立ち上げや実施方法、内容等について	活動のための法人へのアプローチの仕方	4	法人に居場所の立ち上げをどのように相談されましたか。	推進員としてやりたいことをケースを通して施設長に直接具体的に相談した。
		5	法人の長や包括の管理者の口説き方を知りたいです。	特別なことはないですが、当事者の課題を自分事として考える思考を提案し続けた。
		6	私も法人施設に所属しているのですが、法人の巻き込み方について詳しく聞きたいと思いました	法人というより、施設長に推進員という仕事をよく理解してもらったことと、認知症の取り組みはこれからの日本にとって重要な事なので、新しい取り組みは必要ということを知ってもらった。
		7	法人（経営者）は、初期と現在では反応が違いますか？	施設職員への周知が広がり、仕事の依頼が増えた。助かっていると声をかけてもらえるようになった。
	立ち上げ時の状況について	9	企画、準備の相談を重ねたとありますが、具体的にどんな相談をされましたか	やりたいと思うことを実現するために、自分がやれる範囲で続ける事。本当は目標を立てて、企画書を立ててということが筋なのかもしれないが、登壇者が「何かできる事はないかな」と考えている事を上司が知っていたので、悩んでいるを考えながらやれば良い。何かあれば一緒に考えてくれる人がいるので、躊躇することなくスタートした。
		10	準備の流れを教えてください。	①施設長へ提案し同意をもらう。②当事者へ声掛け ③施設長と打合せ（場所の確保・時間・曜日の決定）⑤施設・包括へ説明 ⑥当事者2名からスタート
		11	立ち上げまでにかかった時間。	3か月
12		立ち上げ時の当事者と専門職はそれぞれ何名だったのか。	当事者2名、自職場施設長1名、登壇者1名	
13		立ち上げ時巻き込んだ人はどんな職種か（民生や一般の方や専門職）	当事者からしたい事できることを把握してその都度地域・専門職などボランティアへ声をかけた。	
14		今回はある程度軌道に乗ってからのケース紹介や実施紹介と思われるのですが、当初2名の参加から始まった際の倶楽部の活動はどのようなものでしたでしょうか。	社会資源を紹介したり、一緒に公民館に向いたり、一対一の動きをしたが心は動かなかった。しかし、同じ当事者に会ってみたいかという話をしたときに、表情が変わり、これを求めていたんだと感じた。何も準備が出来てい	
実施場所について	15	場所はどこでやっているのか。（どんな場所を誰が借りてお金はどこから出ているのか）	自法人に相談し、市営住宅の一部を借りて行っている。	
	16	市営住宅集会所はどのように予約していますか。	集会所の管理者に開始前に趣旨を説明し、年間予約、毎週月曜日9～16時	
実施頻度	17	どのくらいの頻度で実施しているのか。毎日？	週1回（毎週月曜日）	
参加費・昼食等	18	きつね倶楽部やきつねカフェの参加費は無料なのでしょうか。	きつね倶楽部 無料・きつねカフェ 参加費200円（コーヒーとお菓子代として）	
	19	昼食についてですが、お弁当を届けていますか。	昼食は施設の厨房で作る利用者・職員と一緒にものを取りに行く（お膳で温かい）	

質問内容		質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）	
1. きつね倶楽部の立上げや実施方法、内容等について	実施に関する推進員の役割や関係者	20	きつね倶楽部は誰が中心になって運営しているのですか？その中での認知症地域支援推進員などの役割とか。	元推進員が現職の上司の許可のもと、継続して中心となって運営している。現推進員も一緒に活動をしているので、いずれはバトンタッチしたい。	
		21	推進員のかたが活動を支えているとのことですが、業務として参加しているのですか。当番制など調整方法があれば教えてください。	法人の方針で推進員は仕事としてきつね倶楽部の運営をしている。施設職員（在宅生活継続支援相談員）も1名常に一緒に活動している。	
		22	推進員も支援者となっているが、どの程度の役割を担っているのか。	運営全般（多機関との連絡調整・個別ケース対応・ボランティア支援・事例検討会など）	
		23	参加されている専門職はどんな職種が来られていますか。	元推進員の、メンバーがボランティアで参加している。また、保育園からの要望を民生委員がつなぎ、園児が畑仕事を手伝うようになった。地域の高齢者が木工づくりのボランティアをしていたり、職員が得意分野（絵画など）の人を探してきて、一緒に行っていたりする	
	参加者のつながり方	24	医師からの紹介でつながることもあるとのことだが、割合としてはどの程度か。また、医師にはどのように周知しているか。	約30%位。推進員として若年性認知症の方のケースを通して知り合った医師へ活動を紹介したことから始まり、現在では診断後早くに社会資源として紹介をしてもらえたケースもある。	
	参加者の地域範囲と送迎の仕方	25	参加者は市内全域からか、設置されている地区に絞っているか	市内全域から。送迎はないので、何らかの方法で来れるのなら受け入れている。	
		26	参加者さんはどのくらいの範囲（距離的に）の人が来られていますか。来る方法はありますか。（徒歩か、公共交通機関か、自力か誰かの付き添いか…など）	自分でバスに乗って、家族の送迎、障害福祉サービスやガイドヘルパーと同行。法人職員のボランティアで通勤の途中で車に乗せるなど、最初はできていたができなくなると、その都度次の手を考えている。（現在広島市中区できつね倶楽部をやっているが、西区・東区・佐伯区・南区から通っている）	
		27	認知症の方はどれくらいの範囲からきてますか	職員が通勤の途中で車に乗せたケースは、事例検討会で話し合った結果のアイデアで、担当する職員・法人施設長・家族・推進員が再度話し合い了解のもと始めた。病状の進行に伴い他サービスが導入できるようになってからは切り替えた。	
		28	本人たちの送迎はどうされているのでしょうか？		
		29	実際の通所は移動支援があって成り立っているのか。通勤途中にピックアップという例もありましたが。		
		30	移動支援について：専門職の方が送迎のうちで行きだけ乗せて来る…とのお話でしたが、特別な許可などは必要でしたか？ちなみにうちは、役所の車なので住民を乗せるのは原則禁止になってしまっています。。。		
	利用者の状況と支援、他のサービスの利用について	31	利用者の平均年齢は何才ですか。	50歳代後半	
		32	きつねカフェの参加者の認知症の進行度でグループ分けしていると伺いましたが、どのような基準で分けているのでしょうか？グループ分けをするようになった理由も知りたいです。	当初は家族の参加者が4～5名だったが、3年も経つと8～10名になり、きつね倶楽部を卒業後施設入所や亡くなられた方もおられる。なので家族のカフェで話したい、聞きたいニーズが多様化してきた。それに応えるために認知症の進行度に合わせて2グループにし、最後に共有する形にした。（初期のグループではカミングアウトしにくい、自分が受け入れられないなど、重度期の方ではACPの話や社会資源の話など）分けたことで一人の方が話す時間は増えたと思う。	
33		介護5の方が参加されていたとのことですが、どのような活動をされていたのでしょうか。	介護5でも歩行し座位保持が可能であったので、排泄と食事の介護はしましたが音楽やスポーツ・会話などきつね倶楽部の環境の中で楽しい時間を過ごした。こちらの自己満足にならないように、本人が本当にとっていい時間になっているかを大切に考えた。専門職として看護師・介護福祉士が複数いますので、自分たちの対応能力を鍛え学ぶ場にもなっている。		

質問内容		質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）	
1. きつね倶楽部の立上げや実施方法、内容等について	利用者の状況と支援、他のサービスの利用について	34	要介護5までの方も対象となっていますが、それぞれの介護度にあった対応をしているのか？	デイサービスやデイケアに通われたり、入所施設に入られたり、介護保険や医療につながりがある方でも、利用が出来て選択肢を増やしている。きつね倶楽部だけにずっといるというわけではなくて、その人にとってより良い所に繋がりるようにしている。つながった先からも、本人がきつね倶楽部を希望したら閉ざすことなく、なじみの場で過ごせる選択肢を残しておく。グループホームに入居され卒業された方が、「コロナが落ち着いたらまた行きたい」と話されて、ぜひそうになったら良いと話している。	
		35	若年性認知症の方のサービスの使い方（障害サービスと介護サービスの利用方法）を知りたい。	自立支援医療・障害福祉・介護保険サービスとも若年性認知症の方を受け持って初めて、困っていることに対して使えるかどうかを手探りの状況で当たっていった。使える制度でも受け皿がなかったり、若年性認知症の理解が乏しかったりはあるが、本人や家族と一緒にパズルのピースをはめるような感じで、進めていった。	
		36	ショートステイは老人保健施設か特別養護老人ホームのどちらを利用しているのか知りたい。	紹介したケースの方のショートステイは、同法人の特養のショートステイ。職員がきつね倶楽部に参加し、当事者と顔見知りから仲良くなりきつね倶楽部に迎えに来て一緒にショートステイに行くという形をとったので、スムーズな導入ができた。	
	言葉を残す取組み、言葉のアルバムについて	37	本人の言葉を残すことは素晴らしいと思います。この作成はどなたが行っているのでしょうか？職員でしょうか？当事者自身でしょうか？	きつね倶楽部を開催するたびに座談会を行っている。テーマに沿って話した内容を、参加しているボランティアの方が記録に残している。それを基に登壇者が個別にアルバムを作った。座談会で話した言葉や写真を整理して、卒業の時に、ご家族に渡している。 「〇〇のラーメン食べたい」という一言が活動のきっかけになり、活動費で出かけることもある。卒業の時だけではなく、普段の活動でもアルバムを活かしている。 施設へ入所する時に、本人は何が好きで、どんなところで生活していたのか、どんな家族がいたのか、なかなか情報が取れないので、アルバムに残して、「使って」と渡している。	
		38	本人の言葉のアルバムは、本人さんたちが自分で付箋を書いたり写真をレイアウトされてるんですか？	本人が自分で書くこともあったが、早い段階で自分で書くという事が難しくなるというのを体感した。書くことが目的ではなく、書けなくても、言葉にされたことを職員やボランティアが書き留めた方が、楽しくなるし、言葉がどんどん出てくると思う。	
	卒業について	39	卒業制で待機者がいるとのこと。上限何人でしょうか？	その時の参加者の状況に応じて、新しい人を追加するかどうか支援者で話し合っ決めていく。大体1回5～8名位	
		40	施設入所などで卒業するケースが多いのですか。	きつね倶楽部の滞在時間は基本4時間なので、卒業はデイサービスへの移行が多い	
	待機者について	41	きつね倶楽部に待機者が増えているということですが、常時平均で何名の待機者がいますか。	12/22（ウェビナー開催時）の時点で、2名の待機者がいるが、すぐには受け入れが出来ない状況である	
		42	待機者の数を教えてください。		

質問内容		質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）	
1. きつね倶楽部の立上げや実施方法、内容等について	家族会開催に関して	43 家族会を開催した経緯をもう少し聞きたいです。	きつね倶楽部を初めて半年後位に当事者たちが楽しく過ごしている状況が家族に伝わり、とても喜んでくださった。家族とは推進員が個別に様子をお知らせしていたが、「自分たちもほかの家族に会いたい、話を聞いて欲しい」という声が家族からあったので、声をかけて最初4名で開始した。家族から定期的に集まりたいと言われ、3か月に1度開いている。		
	他への広がり	44 他地区でも推進員などが居場所づくりに取り組んでいるとのことだが、同様の仕組みのものを増やしている形か。それぞれの地区で方法を変えているようなら、発表いただいた事例以外にもうまくいっている例があれば知りたい。	登壇者の移動先である認知症医療疾患センターで、制度を使っているが同じような仕組みの、若年性認知症の方だけのデイケアを行っている		
	制度との関連	45 介護保険のデイなどへ発展していくおつもりはありますか？	ない		
		46 倶楽部は様々な団体・人的資源が参加されているようですが、国の求めるチームオレンジなどとの関連性について、現在、今後どのような考えを持ってますでしょうか。	社会資源の一つと考えているので、今のままを続けていく。サポーター活動として一つのモデルにはなると思う。設置主体や地域課題などそれぞれ特性があるので、一つケースを大切に色々なやり方でができればいいと思う。また少数派である若年性認知症の方の支援は、声を上げていかないといけないとも感じている。		
		47 チームオレンジ事業につながっていきそうですか？	チームオレンジに近い機能がすでに育ってきていると思うので、今後につなげていきたい		
	その他、実施上の配慮	48 コロナ感染症対策をしながら行っていると思いますが、具体的な対策を教えてください。	検温・消毒・換気・マスクなどをおこなっているが、三密はなかなか難しい現状がある。		
		49 活動に関する保険は何か入っていますか？	ボランティア保険に加入		
	2. きつね倶楽部に関する他との連携	多職種との連携	50 市が委託する包括支援センターが対応している若年性認知症の方が増えていると聞か、就労支援に繋げて関わりが終了している事が殆どで、市の認知症地域支援推進員まで情報が入ってこない。包括定例会でも事例に挙げないため情報が入ってこない。広島市のように、連携をとりつなげられる関係をどう作っているのですか？	ケースごとに事例検討会を行って、自分達だけで解決せずに、新しいアイデアをもらい、専門職同士がつながる活動をしている。	若年性認知症の人と家族の交流会「さくらの会」を定期的で開催しており、継続的に繋がる仕組みづくりを行っている。就労支援事業所等に通り始めた後にも、継続的に訪問等を行い、生活の様子や工夫等についてを確認している。本人ミーティング等で本人同士が繋がれる機会を作り、参加の声掛けも行っている。（藤枝市）
51 若年性認知症支援コーディネーターと一緒に支援したケースはどのくらいありますか？			社会資源として見学や事例検討会の参加はあるが、きつね倶楽部参加者のケースはまだない		
52 就労継続支援B型事業所とはどのような経緯で繋がりができたのでしょうか。本人のやりたいことを聞き取ったうえで、実現可能な場所として推進員の働きかけで探し当てた。あるいは本人自身や家族が離職後に見つけたつながりだったのでしょうか。			本人がしたい事・できることを聞き取った後、仲良くしているB型事業所の方にきつね倶楽部を見に来てもらった。その様子を見て「うちなら、これができるよ」と提案してもらい、事業所に本人家族で見学に行ってもらった。		
53 地域産業・企業などとの関わりはどのように連携（初期の動きなど）していますか。			ケースを通して、したこと・できることとして相談に行った。		
54 若年性認知症の方の支援をしています。保健所との連携は？			直接的な連携はない		
事例検討について		55 事例検討を行っているということであったが、その参加者と内容を教えて頂きたいです。	月に1回のペースできつね倶楽部参加者のケースで行なっている。場所はきつね倶楽部で18:30~20:00参加者は10~20名（現在コロナで中止中）		
3. きつね倶楽部の資金・お金について	運営費・活動費について	56 運営の資金はどの様にされているのでしょうか？	助成金はもらっていない。市からの補助金もない。		
		57 様々な活動の経費はどこから出ているのですか？			
		58 事業自体への支援（助成金等）はどのくらいで行っているのでしょうか。			
		59 事業を続けるにあたり予算はあるのですか。必要経費の捻出はどうしていますか。			
		60 運営費は、どこから出ていますか？100%法人でしょうか？			
		61 きつね倶楽部の開催は社会福祉法人の社会貢献だけで行っていますか（市からの補助等はあるのか）。			

質問内容		質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）	
3. きつね倶楽部の資金・お金について	運営費・活動費について	62	活動の予算（木材や絵画用品）は法人持ち出しでしょうか？	絵画道具は本人持参。木材は知り合いの木材屋から趣旨に賛同してもらってからの寄付と足りないものは購入しているが、初期費用を法人に出してももらった以外は、持ち出しはない。	
		63	物品の購入資金はどこかで予算が組まれているのか。	法人全体のボランティア支援の予算から	
		64	踏み台などの作品の材料費はどうしていますか		
	売上げの収入の使い方	65	得られた収入は、どのように使われているのか。	以前包丁研ぎをしてもらった時にお金を渡していたが、「問題がるのでは」という話になり、今は渡さなくなった。その後は、きつね倶楽部の活動費として納めている。その中から、お好み焼きを食べに行く、お花見に行くなど、みんなで楽しい事をする為の費用に充てている。	
		66	売上げは活動資金等になっているのですか？	仕事として、個人が儲かる仕組みにはしていない。	
		67	稼いだお金は運営資金にしているのか。		
	販売について	68	作品はいくらで販売したのでしょうか？		
	お金の管理の仕方	69	きつね倶楽部を運営するにあたっての運営費(包丁とぎや踏み台の代金等)は、どなたが管理されているのですか？	法人からの費用支出は、開始時の初期費用を1万円程度の買い物代として、ボランティア活動費から出してもらった。その後は、例えば、法人の職員につぶやいて、「木工をするんだけど、…」という、聞いている職員が知人を介して、木材店から無償提供をしてもらった。	
		70	報酬が得られる仕組みとなっているが、金額設定や売上げの管理などはどのようにされているのか。何か参考にされた仕組みなどはあるか。	実費を持ち出すこともあるが、実費+工賃位にして販売し売上げにしている。その売上げで回しているの、きつね倶楽部に予算がついているわけではない。値段の設定は自分たちでしている。	
	参加者への利益の還元	71	地域包括支援センターを通しての簡単な仕事について、若年性認知症の人への報酬はあるのでしょうか。	お金の管理会計は、ゆうゆうタウンの事務局に任せている。	
		72	参加者に利益のどのくらい還元しているのでしょうか。		
	収益をあげることにについて	73	お金を稼ぐことに関して届出等は必要か。		
		74	販売に関しての質問です。販売方法、収入に関しての取り扱いに関してご教示いただければ幸いです。		
		75	どのような活動が収益をうみ、どこがボランティア活動なのか教えてください。		
	4. 関わりや活動上のヒント	若年性認知症の人とともに	76	当市では若年性認知症の方の把握が難しいです。どのように把握をされていますか。また思いを引き出す関係性の作り方などをお聞きたいです。	診断をする医師の感度。診断をするのが仕事だが、その診断後のことを考えてくれると、「こういう人がいるんだけどどう」という一歩が医師から出てくると思う。そういう医師とのつながりを大事にしている。こういうことが出来ると、「きつね倶楽部どう」という声が、沢山かかることを実感している。
77			若年性認知症の方とまだ接する機会が少ない。当事者と接する機会はどうな場面や職種が多いと思うか。	広島市では若年性認知症の相談会がある。また専門医の先生とのつながりでの紹介や認知症カフェ、若年性認知症コーディネーターからの紹介など	若年性認知症コーディネーターからの相談や、障害年金や手帳、社会制度に関する問い合わせでが庁内に入り、他課から推進員の所属する地域包括ケア推進課に繋げてくれることもある。また、疾患医療センターから包括に情報提供があることもあり、多様な職種との繋がりや情報共有を行うことを日頃から心がけている。（藤枝市）
支援を望まない人と		78	支援を望まない人の支援はどうされていますか	その気持ちを大切に。できること、楽しめることこちらが助けて欲しい事につながる機会を見つける	ある当事者との出会いから、自分自身が当事者との関係性に対しての発想の転換が必要だと感じたことがあった。これまで“対象者のために何ができるのか”という支援の対象者として捉えていたが、当事者は支援を求めている訳ではない事を知り、やりたい事を一緒に実現することや、“ともに暮らしやすい地域を考えていく存在”として当事者の生活や体験等からヒントをもらうことも多く、関係性を見直すことができ、今は一緒に活動をしている。（藤枝市）

質問内容		質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）	
4. 関わりや活動上のヒント	力を引き出すコツ等	79	どうやって相手の力を引き出すのか、なにかコツがあるのか。	専門職同士だったら、困っていることは「困っている」とちゃんとと言えること。自分はこれができるけど、出来ないこともある事を言える関係。いろいろな小さなつながりで協働していると思っている。	
		80	当事者と関わる上で、重度化防止のために必要な支援のポイントは何か。	関わっている職員の何気ない話（恋愛・昨日の出来事など）ができることで、受け身にならずに、当事者がアドバイスを送れるような関係が、当事者にとって楽しみになっているのでは。	
めげそうになったタイミングやエピソード等（乗り越えられた理由も含め）		81	新しい資源を生み出すことの気持ち的な苦勞、があれば聞きたいです。	きつね倶楽部では、みんなでやりたいことを考えていくので、これをしなくてはいけない、あれをしなくてはいけないという事がなく、「みんなで何をしますか」と考えるところに焦点が当たっていることは、ノウハウとして学ばせてもらった。	
		82	きつね倶楽部を開催するまでに苦勞したこと	何も準備が出来ていないまま若年性認知症の当事者を出合わせて、やりたい事の希望を聞いた。登壇者と一対一ではできなかった、「カーブの応援に行きたい」「ケンタッキーとビールが飲みたい」と、当事者同士と一緒に話が盛り上がった。	きつね倶楽部を始めた当初は、大変だったとあまり感じずにやっていたと思う。これまでのプロセスを振り返ってみて、「あの時は大変だった」と感じるのではないかな。今のきつね倶楽部の形を真似ていきなり大きなことをやろうとすると、壁に当たったり、大変な思いがあると思う。推進員（登壇者）一人と施設長、当事者2名でやれることから始めたというところが、今の形に繋がったのかなと思った。（御坊市）

質問内容		質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）
* 設立当時のエピソード	83	<p>きつね倶楽部で職員には、若い人が認知症になるんだということ、高齢者と違って若いからこそ色々な悩みや課題があるという事を、自分事として感じる機会になってほしいと考えている。</p> <p>若年性認知症の人が困り事があって居場所を作っているという事を明確にしている。「私はこれしか出来ないけれど、これできる人手伝って」という発信をして、法人の職員の中では助けてもらいやすい状況を作ったと思っている。</p> <p>きつね倶楽部の目的や意味をちゃんと伝える。仕事の途中でも「フットサルできる人」と言えば、「俺30分出来ます」と言ってきてくれるつながりは、自分たちは若くてフットサルを普通に出来るけれど、やはりこういう場所ではないとフットサルができないという現実があるという事を職員たちがわかって、手伝いたいといってくれる。また、施設の中でも理解してくれて、上司が許してくれるという流れの中で、一つひとつの支援が生まれてきていると思う。その延長で、地域の人でも若くても認知症になって、困って、行くところがなくて。でも出来ることが沢山あって、誰だって楽しいことがしたい。というところがわかってもらえて、「これなら手伝えるよ」「一緒に楽しもう」と言ってくれる。</p> <p>例えば、ベンチを作る仕事があって、登壇者ではベンチを作ることが出来ない。当事者2名は「きっと出来ると思う」程度で、一緒に材料や工具を買いに行ったが出来ない。困ったところに、施設に壊れた踏み台を修理するボランティアが来ていて、その人に相談をした。「教えてあげるよ」と言ってくれたが、当事者が若年性であることを伝えると、「わしゃ、認知症はわからん」「認知症どうしたらいいかわからんで」と素直に言ってくれた。「わからんで大丈夫です」「とにかくベンチを作ることを教えてください」と言ってお願ひした。一緒にやりながら、当事者は忘れることがあるが、ボランティアの方は、「認知症はこういう事か」と体感して、関係が出来てきた。その方がヨロヨロとすると当事者が助けて、良い関係が出来ながら、若くても認知症になって頑張っている人がいるんだという事を、その人がスーパーに行って友達に話してくれる。そういうつながりができた。</p> <p>地域の人と一緒にやるという事はリスクがある程度あると考えながら、そこはしっかりフォローし、良いことが沢山あった。他の専門職から「刃物を使って危険なのは」と言われたが、怖がることはなかった。</p> <p>きつね倶楽部に来て、自由になった時の声は、家族もなかなかキャッチできていないという現実を、きつねカフェを通して知ることができ、家族も喜んでいた。</p> <p>家族から「きつね倶楽部ではどういうふうに過ごしているのか」という話があり、きつね倶楽部での活動の様子を動画で伝えた。</p>	鳥取でも「つながるカフェ」を開催している。認知症の本人に対して「傷つけないように」とか「なんとかしてあげなきゃ」と思っていたころは楽しくなかったけれど、今はやりたいことをみんなで決めて、プロセスも一緒に楽しんでいる。借りていた場所が使えなくなり、どうしようと思っていたけれど、参加者が一緒に場所探しをしてくれて、声をかけて下さった。上手くいくことばかりではないけれど、一人で抱えこまなかったら、何とかあった。岡田さんのように、一緒にやりながら考えると良いと思う。（鳥取市）	

視聴した人から寄せられた情報（主なもの）	
1	当市にも若年性認知症の当事者や家族を対象としたあすなろの会というのがあります。同じ法人内で活動している若年性認知症コーディネーターと連携して活動しています。
2	プラチナファーム（認知症当事者の方の活躍の場として畑の作業） OHANAproject（認知症の方や地域の方とのコロナ禍での交流・外出のツールとして一緒に花を植えたり、畑作業をしている）
4	若年性の当事者おろか、当事者ミーティング自体出来るカフェの創出も現在取り組みをしているところですよ。学ばせてください。
5	居場所があるといい、と思いはするけど、そのことについて活動するまでに至っていない。
6	今はまだ何もできていないです。 推進員としての活動とは違うかもしれませんが、高齢者福祉係では、柳川市（近郊も含む）に住む65歳以上の高齢者を対象に、Zoomのつなぎ方や、実際に自宅でもつないでみるの講習があり、面白いなと思いました。（←つい最近知りました）今後、コラボし活動として広げていけたらなと思っています。
7	親子の認知症サポーター養成講座に端を発した、「よりみちカフェ」を月1回開催しています（現在は休止中）。地域のママたちが中心となって、幼児から高齢者、認知症、障がい者、犬。限定せずに、だれもが寄り道できる場所として、おにぎりとお汁パイキングを提供しています。
8	現時点では若年者のみならず高齢当事者に対する自己実現の場やピアグループは出来ておりません。
9	シングルマザーで老親も抱える中での診断。子供の学費等の工面と一緒に考え、必要な支援に繋がった。
10	西宮市でも若年性認知症交流会「わかみか会」を開催していますが、参加者増えたり減ったりです。特に、本人ミーティングを行うためには、同じくらいの状況で話し合える仲間が集わなくてはなかなかできず、難しい部分もあります。また、市内で一カ所のため、遠方の方がなかなか来られなかったり、交通手段や付き添いの問題もあり、悩んでいるところです。
視聴された人から寄せられた意見や感想（主なもの）	
1	本人の出来る事、したいことに対して一緒に考えて活動の場に繋げることが出来ているからこそ、当事者が楽しめる場になっているのだと改めて気づくことが出来ました。 岡田さんの想いや、ネットワークがあるからこそ、活動の輪が広がっていることを感じる事が出来ました。
2	アルバムづくり私もし当事者の家族だったらうれしいと思います。 3か月に一度のミーティングの内容、どんなことが多いか知りたいです。
3	やりたいことができる・続けられる仕組みづくりをすることの大切さを実感しました。
4	軽度の認知症があっても体は元気な方や、支援があればやりたいことが続けられるという方も多くいると思います。若年性認知症の方には“就労”や“収入”が特に重要となってくるため、それらが得られる仕組みは特に必要なことだと思います。
5	卒業が難しい状態とのことでしたが、認知症の進行によって要介護認定が上がっても参加し続けられる体制が整っているということだと思います。
6	法人の理解・協力が得られ、週1回という頻度で実施できていることも素晴らしいと思いました。
7	きつね倶楽部の活動は、若年性認知症の方にとってはとてもよい居場所になってると思いました。このような活動できる場所が増えていけばいいと思います。
8	すごい！！こんな素晴らしい社会資源の開発はわくわくと共に色々な苦労や壁もあったと思います。当事者の声を形にすることは簡単ではないと思いますが、きちんと実現させており、当事者や当事者家族にとって居心地のいい居場所になっているのがすごい！ 当初狙っていなかった効果があとからついてきたのもすごいと思いました。
9	続けることに意義がある！
10	活動の基地となる場が地域に必要で、それを作ることができたらいいなという思いを強めてもらいました。
11	今はまだ、地域への周知が十分ではない状態です。
12	何があってもやり続けることで、基地=居場所を維持できているのだと思いました。

視聴された人から寄せられた意見や感想（主なもの）

13	座談会に家族も一緒に参加すると、なかなか本音を語ることはできない。本人の好きなことなどを書いたり、写真を張りつけたりするノートを作ることで、家族が知らない本人の本当の気持ち、また、本人の病状が進んでしまったときに、そのノートを関係者が共有することで、本人の気持ちに沿った支援ができると思った。小さなちょっとした気づきを積み重ねていくことが、本人支援につながると思った。本人の気持ちに耳を傾け、本人のやりたいことをキャッチする。
14	若年性認知症の方には、進行してから支援にあたることが多く、本人がやりたいことを話せなくなったり、聞くことができなくなっていることが多い。若年性であっても、早めに公表でき、自分らしく暮らせるためには、周囲の理解や相談先の周知が必要だと感じた。
15	3年でここまでの活動に形ができあがることに驚きました。当市においても、少しずつ地域づくりをすすめていけたらと感じた。
16	高齢者の認知症の理解よりも更に若年の方の認知症の理解は、周囲の方の協力と理解が必要と感じており、日々悩んでいます。最後の「何となくでもやり続けるそして、続けることで仲間が増える」という言葉はとても素敵でした。
17	地域になじみのあるキャラクターを用いて作成されたマスコットキャラクターは親近感がわくもので、チーム感も増し、素敵だなと思いました。私たちも、地域性や、本人の特技を生かした場をつくってあげたいなと思っています。
18	写真だけではなく、本人の言葉を残していくとの取り組みも、より本人を知る大切なきっかけであり、ぜひ自分たちも取り入れたいなと思いました。
19	やりつづけることは、簡単なようで大変だと思いますが、とても重要だと感じました。家族が集まる機会があるのも、いいと思いました。
20	園児やOB、OGが関わっているのも良いと感じました。
21	専門職以外のつながりも多く、楽しい様子が伝わりました。
22	本人の特性（やりたいこと、できること等）に合った活動手法が良いと思いました。
23	一人の認知症の方に対し多くの人々が寄り添い、関わる事の大切さを教えていただきました。また、専門職のつながりも大切ですね。
24	若年性認知症の方への支援等本市でも課題であり、今回の動画やウェビナーを通して若年性認知症への支援活動へ活かしていきたいと思います。
25	大変参考になりました。ありがとうございました。22日も楽しみです。
26	若年性認知症は、個性があり、おひとりお一人の望みをかなえることが推進員にとってどれだけ難しいか実感しています。全国ではデイサービス等で社会参加型の支援をしている所もありますが、全くないところがほとんどだと思います。私の担当エリアの推進員は包括支援センターに置かれていますが、これまで介護保険しか知らないため、新たに何かをしようとするとかからしてよいのか、どこを巻き込んでよいのかわからなくなり、活動がとまってしまいます。推進員も、色んな職種や包括だけではないところが担えばもっと認知症の人や家族にとって支援や活動がしやすいシステムができると考えています。
27	法人が地域貢献に協力的なのがとても良いと思いました。
28	推進員以外の多くのボランティア活動の仲間が協力しており、多くの社会資源の開発が必要だと思う。
29	わかみや会ももう少し小地域的な活動や、法人を巻き込んだ活動ができたらいいなと思いました。
30	若年性認知症の人の居場所は必要と思われるが、広島市と違い、人口70,000人のこちらの市では、診断を受けている人もごくわずかである。とても良い活動を思いますが、実施することは難しい。近隣の市町と共同で開催することができればよいですが。
31	一つ一つのケースに真摯に向き合っていくことで、仲間が増えていく。日々の活動は大きな変化は見えないけれど、長い時間をかけて変化していくものだと感じた。「何があってもやり続ける→やり続けると仲間が増える」そのとおりだと感じた。
32	若年性認知症の方がやりたいと思う活動を現金収入へとつなげ、生きがいややりがい、自信につなげていく取り組みはとても素晴らしいと感じました。。
33	居場所の狙いとして役に立って仕事で儲けることや好きな事を楽しむということが参加者のモチベーションにつながっていると実感できました。
34	居場所を立ち上げる際に、利用者さんと一緒に進めたところ。地域にどんな居場所を想定したらいいかと考えていたが、利用者不在のまま考えていた自分に気づいた。
35	拠点を地域の中に持つことで、周囲の住民との距離も近くなる。講座などよりも自然な形で理解を普及啓発できている。
36	若年性の方の居場所作りの為に、様々な機関を上手に巻き込んでいっしょと感じました

視聴された人から寄せられた意見や感想（主なもの）

37	当事者が参加して楽しめるもの等を認知症カフェ等で行っていただけらと思いました。また、参加者が多く集まらないとできないと思っていましたが、少人数からでも良いのだと感じ今後の活動に活かしていきたいと思います。
38	当事者同士で集まる機会があるのは良いと思った。
39	型にはまった施設では利用継続が難しく、行き場がないというケースについて、柔軟に対応したいとの思いから、つなぐ場を実際に作っていったという取り組みは、本当に必要な場所ではあると思うものの、実際にはどうやって作ればよいかかわからず、行動に移せずにいたので、とても参考になりました。
40	若年性認知症の方の相談に対して、個別の支援に偏っていた。当事者にあう資源がなくても当てはめようとしていたことは言うまでもなかった。能力を活かし安心できる居場所を創出すれば、そこで、当事者同士がつながる自助の力が育ち、地域の周囲から巻き込まれてくれるものであることを、倶楽部の出発点から現在にいたるまでの状況が課題はつきないが、参考にしたいと感じた。
41	御坊市の取り組みで、本人の声をまとめていたが、今回の動画を通して、家族の声も記録に残しておくことで、必要な支援や地域づくりのヒントになると感じた。
42	思いをアルバムにして家族に届けるというのがすごく良いと思った。
43	若年性認知症の方の支援方法について。その人の得意としていること、楽しみにしていることに焦点をあててできることを探していく。
44	新しい事業を始めるきっかけや関係機関をまきこみながら広げていく方法。熱意を感じました。
45	本人がやりたいことができると、それを支援した人との関係は良いものになる。結果、本人は意識していないが必要と考えられる支援についてもスムーズに導入できるため、家族や支援者の負担軽減につながる。
46	受け身の活動ではなく、当事者が主体的に出来る事やしたい事を引き出して、参加できるような在り方がとても良いと思いました。
47	当事者の持つ力を活用すること。包丁砥の所で思いました。
48	推進員が所属している法人の「地域貢献」という視点から、活動の場を展開していくと、法人の理解も得られ、マンパワーも得ることができる。
49	団体の名前や、やることを当事者と一緒に考えるというプロセスを踏んだことで、参加者にとって居心地の良い居場所となったように感じた。
50	企画をして場所を作り上げてから参加してもらうのではなく、場所づくりの段階から関わってもらうこと（当事者の直の声をきくこと）。
51	また、やり続けることが、仲間を増やすことという言葉に勇気もらった。
52	本人のやりたいことをしっかり聞き取り、そこにつなげていくということ。
53	ネーミングが良いと思いました。
54	特技を活かした活動の具体例が知れて良かった。
55	私自身が若年性認知症の方と接することがなかったので、かわり方についてとても参考になりました
56	本人が何をしたいのかを共に考え、具現化していくこと。こういうことが必要だろうなという形ありきでない伴走型支援の必要性を感じた。
57	当事者（若年者）の発信から地域住民や高齢者への啓発に繋がったという結果。これこそ本人が社会にとって役割や参加になることであり、メッセージ性の強いものになると感じた。
58	ボランティアグループとの連携など、今ある地域の手をうまく活用し、そこから広げていければいいなと思いました。参考になりました。
59	認知症＝高齢者という概念から誰でも認知症になる可能性があるというメッセージ性があった。支援する人される人の固定概念を捨て、みんなで何かを成しえていくという考え方は、今後きつねクラブを継続する上で必須であると思う。
60	思いをアルバムにして家族に届けるというのがすごく良いと思った。
61	好きな事や出来る事を活かした活動を支援してるのが素晴らしいと思った。